

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 30年 11月 15日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	1名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873500767
事業所名 (ユニット名)	グループホームぽかぽか
記入者(管理者) 氏名	大平 真里子
自己評価作成日	平成 30年 10月 25日

<p>【事業所理念】 自然豊かなのんびりとした環境の中で、利用者一人ひとりがそれぞれに日々の生活の中で役割や生きがいを見いだせるお手伝いをしている。地域の一員として生活できるように支援している。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・看取りに向けての体制を整える。職員の看取りに向けての意識づけと研修に参加しホーム内研修として周知する。 ・災害への備えを行う。備蓄品について必要と思われるリストを作成する。定期的に備蓄の管理と補充。実際に避難所での宿泊を経験し地域の皆さんに助けられた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設14年目の事業所は自然環境に恵まれた山間の集落の中にあり、家庭的雰囲気の中で、利用者一人ひとりが役割を持って暮らしており、地域行事にも参加し地域住民とも積極的に交流している。西日本豪雨災害では、避難所で地域住民と一緒に一夜を明かし、苦楽を共にしたことでさらに地域住民との関係が強固なものとなっている。職員は利用者一人ひとりの持っている力を把握し発揮できるよう支援しており、手作業や家事など、活動的な1日を過ごしている。専任の看護師を配置し、協力医との24時間医療連携によりいつでも看取りに対応できるよう体制が整っており、利用者や家族の安心につながっている。</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日頃の会話の中から把握するように努めている。職員から話題を提供して話しやすいようにしている	◎		◎	それとなく話題を持ちかけて話しを引き出すようにしたり、利用者と同じ目線で一人ひとりに合わせた話し方をするなど考慮して、日常の何気ない会話の中から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表情や行動などで判断したり、職員同士で意見交換し、把握するように努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	気になることがあれば面会時や電話にてご家族に連絡している				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気づいたことがあれば日々の記録に職員それぞれが記入するようにしている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	職員一人で判断しないように努めている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前にご家族から聞くようにしている。入所後にご本人から会話の中で聞くことも多い			△	入居時に利用者や家族から情報を収集するとともに、入居前に利用していた事業所や医療機関から情報を得ている。生活歴等の詳細な記述はあるが、さらに利用者のこだわりや大切にしてきたこと等、暮らしぶりの全体像が把握できるよう聞き取り項目を検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	声かけて何でもやってみてもらう。そこから好みや残されている力を把握するようにしている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	△	言葉で伝えられない利用者は表情などを見て推測するが把握するのは難しい場面も多い				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	△	体調管理、居室の環境整備、声かけなどで思いつくことは試してみるが、全ての要因を把握するのは難しい				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録に残し把握することで変化への気づきを職員で共有し気になることがあれば話し合うようにしている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の視点で検討するよう努めてはいる			○	利用者の視点で課題分析を行い、利用者一人ひとりが持っている力が発揮できるよう考えて検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	必要と思われる支援を職員で話し合うようにしている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	日々の生活の中で必要な支援をケアプランの中に反映している				

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の思いを反映するように努めているがご家族の意向と異なることもある	/	/	/	計画作成担当者が作成した原案に、職員からの意見や提案を追記しそれを基に検討し完成させている。家族等の意向が面会等で確認できない場合は、郵送し記載してもらするなど、反映できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご家族と話し合う機会は少ないので、意向をケアプランに書き込んでもらい反映するようにしている	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	利用者それぞれで異なるので状況に応じて出来ることは対応するようにしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族の協力は得られているが、地域の人との協力体制は盛り込めていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	日々の記録と一緒にファイルし共有している	/	/	◎	介護計画は今日の出来事という介護記録用紙と一緒に綴じ、毎日介護計画を確認しながら実施状況を記録しており、職員全員が共有するよう努めている。利用者の暮らしの様子や言葉、表情等を詳しく記録して利用者の理解につなげている。職員の気づきや提案は日誌に記録して共有し、介護計画に活かしている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日記録することで確認している。気づいたことがあれば申し送り検討している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の記録に記入している。特に利用者の会話の内容や表情については気を付けて記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	記録に残すことでケアプランに反映できることもある	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者それぞれに応じて見直しを行っている	/	/	○	介護計画は3か月に1回見直ししている。利用者の状態に変化がない時でも、毎月のモニタリングにより状況を確認している。利用者に大きな変化がある時は、家族等関係者で話し合うなど、現状に即した介護計画の作成に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	介護支援専門員が声掛けしモニタリングを行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態に変化があればその都度見直しし作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	気になることがあればその都度話し合うようにしている。全員で集まるのは難しいが職員間で共有している	/	/	○	緊急案件等気になることはその都度話し合い、職員会議等で共有するよう努めている。定期的に職員全員で話し合う機会を持つことが難しいため、口頭や書面で全員の意見を集約して、課題の解決に向けチームで取り組めるよう工夫している。参加できない職員には、日誌や申し送りノートを確認することにより共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	口頭で話し合ったり、書面で提出したりして、職員それぞれの意見や気づきを聞くようにしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	全員で話し合う場を持つことが難しい為、何日かに分けて少人数で話し合うようにして全員が参加できるようにしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送りノートなどを活用し伝達するようにしている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や申し送りノートに記録し共有するようにしている	/	/	○	利用者の状態の変化やサービス内容の変更等は、日誌や申し送りノートに記載して出勤時に確認し、署名を行っている。看護師が記載の医療情報は色を変えて分かりやすくするなど、確実に伝達するよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	利用者については個別記録や日誌に記録し出勤時に確認するようにしている。伝達事項は申し送りノートに記録し共有している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	会話の中から把握することはできても叶えることは難しいことも多いので、出来る範囲に限られてしまう	/	/	/	その日行う家事や畑の世話等、利用者一人ひとりが自分で選べるよう優しく声をかけるよう工夫している。心配性の利用者には、自信を持ち楽しみながら作業に取り組んでもらえるよう声かけのタイミング等に配慮するなど、雰囲気づくりに努めている。調査日も休むことなく、クリスマスの飾りつけや干し柿づくりに精を出している様子を窺うことができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	お手伝いや作業を提供し、本人にどうするか決めてもらうように声かけしている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	本人に希望を聞くように努めている。お手伝いや作業の中で好みやできる事を把握し、それに合わせた支援を行うようにしている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一日の生活リズムは決まっているが、利用者の体調や気分により臨機応変に対応するよう心がけている。入浴日は職員の配置により決まっている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	できる喜び、食べる喜び、作る楽しみなど常に達成感や笑顔を引き出せるように努めている	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	笑顔で穏やかに過ごせるよう心がけている。本人の意向にそえているかは分からない	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	慣れ合いから声掛けや態度に意識がなくなる場面が見られることがある	◎	◎	△	職員は利用者の誇りを損なわないよう言動に配慮しているが、慣れ親しんだ関係の中で過度な馴れ合いになることがあり、大きな声や気になる態度等もあるため、今後は意識した声かけなど行動の徹底に努めて欲しい。居室には利用者の了解を得てから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	意識はしているが、難聴の利用者に対して大きな声で言うてしまうことがある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安がないように配慮している。羞恥心やプライバシーについては利用者それぞれに応じて対応している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室で過ごされている場合には声かけてから入室するようにしている。居室の掃除をする際には、本人に了解をもらってから実施するようにしている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	電話対応や来客対応にも十分気を付けるように伝達している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として生活の中で教わる場面も多い。	/	/	/	利用者同士がお互いを尊重し、いたわりや思いやりを持ち声をかけ合っている場面が多いなど、いい関係が築けている。時に不穏になる場合もあるが、職員が間に入り仲介するなど配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	介護度の異なる利用者同士の生活で支え合うことを日々実感している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルになることもあるが、間に職員が入ることで収まっている。食卓テーブルの席替えを行い環境の工夫をする。職員の様子を見て利用者同士で声かけている場面も見られる	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	様子を観察し、必要に応じて職員が介入する。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	利用者全員の把握は難しい	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	ご家族や本人から情報収集しているが全員の把握は難しい	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人から希望があればご家族に伝えている。友人や知人に会いに行くことはないが、訪ねてこられることはある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会に来やすいよう環境づくりをしている	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一人一人の希望には添えていない。地域の行事などには出かけている。車いすの利用者も天気の良い日にはテラスで日光浴や昼食を摂るようにしたりしている	○	◎	△	天気の良い日は近所に散歩に出かけたり、菜園に出て野菜の世話をしているが、利用者一人ひとりの希望には沿っていないため、重度の利用者等の希望にも沿うなど、外出する機会が増えるよう支援に努めて欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ホームの行事で外出する場合にはボランティアをお願いすることもある	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日にはテラスで日光浴をするようにしている	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人から希望があればご家族に伝えている。ご家族の協力でお墓参りなどに行く利用者もいる	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者一人一人異なることを理解している。	/	/	/	利用者一人ひとりの能力を把握して、職員は過度な介護にならないよう留意し、食事の支度など自分ができることに取り組んでもらっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	それぞれに残された力を把握し、生活の中で維持できるように努めている	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	声かけや手を出しすぎないようにを常に意識している。見守ることに努めるようにしている	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	自宅の延長を心がけ、日々の生活の中で出来ることは何でも利用者にお手伝いしていただいている。ホームの環境を活かして畑づくりを行っている	/	/	/	利用者は日めくりカレンダーの管理や歯ブラシ洗浄後の片付け、配膳や後片付け、掃除、畑の世話など、それぞれ責任を持ち役割を担ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	全員ではないが、利用者に役割を持って生活してもらるように努めている。カレンダーの交換など	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	祭りなど、地域の行事に参加できるように支援している	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	日頃の会話の中で本人の好みは把握できている。希望があれば家族に伝えて協力をお願いしている				職員が利用者一人ひとりの整容に乱れがないかを確認し、重ね着等がある際はさりげなく声をかけて居室で着替えてもらうなど支援している。重度の利用者も、起床時に好みの服装に着替え、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	可能な限り本人の希望を確認しながら、季節に応じた衣類を選ぶお手伝いをしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	衣類の用意が一人で出来ない利用者には、職員が付き添い一緒に選ぶお手伝いをしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出することで服装への興味や選ぶ楽しみも見られるので、機会を増やせればと思う				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	利用者によって対応は異なるが職員の気づきが遅れる場面も見られる	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	理容・美容のために外出するのは難しい。出張散髪サービスを利用している				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	出来る限り本人の希望を確認している			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	ホームでの生活の中での食事の役割は大きく、職員も理解して支援に努めている				食材をまとめて買い置きし、その日の調理当番の職員が利用者の希望を聞きながら、献立を考えて調理している。事業所の畑で収穫した野菜や、地域の道の駅などで購入した季節感のある食材が食卓に上ることもある。利用者は野菜の下ごしらえや配膳、後片付けを皆が協力して行っており、使用する食器は使いやすさを考慮して選び、茶碗や湯呑、箸は専用の物を使用している。職員も同じ食卓を囲み、それぞれが持参した弁当を介助をしながら一緒に食べていた。台所はカウンター式になっており、重度の利用者も調理の音や匂いを感じることができ、ミキサー食の利用者には、献立の説明をしながら介助していた。栄養バランスを考慮して、肉や魚料理を取り入れているが、低たんぱく傾向にある利用者等のため、行政の栄養士等に栄養チェックを依頼して助言を得るなど検討しており、今後は職員で定期的に話し合う機会を設けるなど、利用者の栄養バランスの維持に万全を期して欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	買い物はできていない。献立は、アドバイスをいただくこともある。調理、配膳、後片付けまで利用者に手伝っていただいている			◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者それぞれに出来ることを手伝っていただいている。利用者同士で役割分担し効率よく作業される場面も見られる				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーについては入所時に本人やご家族から情報を得ている。苦手な食材は差し替えたりして対応している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ホームの畑で収穫した野菜や、地域の産直コーナーで購入した野菜を食材として提供している。食材から会話が膨らむ			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	△	本人の能力に合わせた食事形態で提供するようにしている。見た目食欲を起こさせるよういんどりには工夫するよう努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△	使いやすさを重視してしまうことが多い			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食べながら介助している。必要に応じて声かけている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	ミキサー食の利用者にも献立を説明しながら食べてもらうようにしている	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量や水分摂取量については調整しているが、栄養バランスやカロリーについては調理職員によって異なり統一されていない				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	様子を見て、途中で飲みやすい物に差し替えたりして水分摂取に努めている。食事量の少ない場合は栄養補助剤も取り入れるようにしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいないのでアドバイスはないが、職員によって偏りが無いよう過去の献立表を確認してから献立を決めるように努めている			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の管理は多くの職員が目を確認するようにしている。台所を清潔に保つよう努めている				

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの重要性は理解している	/	/	/	協力医である歯科医の訪問診療により、口腔内のチェックや治療を受けることができおり、歯科医の指導内容は職員間で共有している。職員は歯科医の指導に基づき、利用者の口腔内の状況を把握し、口腔内の清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に確認するように努めている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診時に直接指導を受けたことは他の職員にも伝達するようにしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後に口腔ケアを実施してもらい必要に応じて職員が支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	口腔ケアは毎食後に出来ているが、口腔内の確認は日常的にはできていない。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合や異変があればその都度、歯科往診に繋げている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄が大切だと理解している	/	/	/	日中・夜間ともにトイレで排泄できるよう支援しており、ほとんどの利用者が紙パンツで過ごしている。排尿量や時間帯によって適切な排泄用品が選択できるよう、職員で話し合っ決めており、利用者一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	認知症による便秘症状や及ぼす精神症状もあることを理解するよう努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	△	排泄チェック表にて把握しているが、把握が難しい利用者もいる	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	昼と夜で使い分けするようにしたり、サイズの検討も利用者の状態に応じて職員間で相談して変更するようにしている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	気になることは職員間で話し合い、必要に応じて医師に相談し服薬による改善も行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を活用し、声かけが必要な利用者にはトイレ誘導を行うようにしている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	利用者が自分でサイズなどを選択するのは難しいが、使用するかどうかを本人に選択してもらうこともある。必要に応じて職員間で話し合い種類やサイズを決めている。コスト面でご家族に協力をお願いすることになるので、使用開始時には了承を得ている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	昼と夜で使い分けしている利用者もいる。下着からオムツに変更が必要な場合には移行がスムーズに行えるよう声かけにも気を付けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食事、水分の工夫などは行っているが、排便コントロールの為に薬に頼ってしまう傾向にある	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	職員の配置上、入浴の日は決まってしまう。入浴日の中で入る順番などは利用者の意向に沿うようにしている	◎	/	△	入浴順や湯の温度等、利用者の意向に沿えるよう配慮している。特別な場合はシャワー浴を行う等対応しているが、入浴日は職員体制を考慮し決めているため、今後は利用者の要望にも応じるなど臨機応変な対応にも努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	拒否しつつ入浴された利用者も入浴後は、気持ちよくなったと出てくるので、気分良く支援できていると思う	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者が不安にならないように声かけしながら入浴支援につとめている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理じいはしていない。時間をおいて声かけしたり、声かけを工夫する。どうしても難しい場合は、着替えや足浴に変更する	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルを確認し見極めている	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	記録により把握している	/	/	/	不眠が続く場合などは、薬剤に頼りがちになるので、日中の活動量を増やすなど工夫し、安易に薬剤に頼らないよう支援に努めて欲しい。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中活動し夜にしっかり眠れるように生活リズムを整えるようにしているが、原因が分からず睡眠状態が改善できない利用者もいる	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	睡眠改善に繋がっている利用者もいるが、良眠に繋がらない利用者もいる。必要に応じて往診医に相談している。	/	/	△	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	定期的に自分で昼寝や休息をとる利用者もいるが、本人から休めない利用者には様子を観察し必要に応じて誘導している	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話でご家族や友人とコミュニケーションを取る利用者もいる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	必要に応じてお手伝いをしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話は居室で使用されている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	利用者が自室で保存している。場合によっては返事を送るお手伝いをしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入所後、ホームでの生活に慣れるまでは本人からの電話が多くなることに理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	ホームで金銭の管理は行っていないが、本人がお金を所持することで安心する場合には自己管理で所持してもらっている	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	個人的に買い物へ出かける支援はしていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	個人的に買い物へ出かける支援はしていない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人やご家族が希望される場合はお金を所持している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人が所持することで起こり得る紛失トラブルについて、ご家族にご理解いただいている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	×	ホームで金銭の管理を行っている利用者はいない。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	生活保護の申請のお手伝い。他の施設へ入所する際の情報提供等の支援は行っている。入所しながら他のサービスを利用した事例はない	◎	/	○	家族の都合が悪い場合など、職員が付き添い病院受診している。孫の結婚式に出席したり、身内の葬儀や法要に参列できるよう柔軟なサービス支援にも努めている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	勝手口から利用者が自由にテラスに出られるようになっている。ホームの周囲には花を植えて利用者と手入れを行っている	◎	○	○	一般家庭と同様の玄関で、玄関先には利用者と一緒に植えた花があり、来訪者の気持ちを和ませてくれており、気軽に入りやすい雰囲気が出ている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気になっていると思う。季節ごとにクラフトを貼り替えたり、ひな人形やクリスマスツリーを出したりして季節感を出すようにしている	◎	◎	◎	共用スペースには、ひな人形やクリスマスツリーなど、季節感のあるものを置くなど、家庭的な雰囲気づくりに努めている。毎朝利用者と職員と一緒に清掃しており、不快な臭いは感じられず清潔感が漂っている。リビングのテーブル席は冬はこたつになり、日本の家庭らしい雰囲気になっているほか、季節の花を飾るなど、居心地よく過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除は利用者で毎日行っている。臭いには意識するよう心がけている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	ホームの敷地内で咲いていた花を摘んでいけたり、旬の果物などを飾っている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自由に居室に入出入りされている。テラスに出てベンチで会話される姿も見られる	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	扉やカーテンで区切り、見えないように気を付けるようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	可能な限りは居室に置ける物は持ち込みされている。仏壇を持参され、毎日拝まれる利用者もいる	◎	/	/	たんすや椅子、テレビ等を置き、壁に塗り絵作品や家族写真を飾ったり、仏壇を持ち込むなど、利用者にとって大切なものが居室にあり、居心地よく暮らせる空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	リビングを中心に居室への移動の妨げにならないような空間づくりをしている。必要以外の物を置かないようにしている。	/	/	/	利用者の移動の妨げにならないよう、 unnecessaryな物を置かないよう配慮するなど、自立した生活が送れるよう支援している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室が分からなくなる利用者の為に居室の前に名札を掲示している。個人の持ち物には名前を書くようにしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ハサミや針などは使う時に職員が提供している。お茶は自由に飲めるようにしている。掃除道具は置き場を決めているので利用者が自分で取りに行かれる	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解し実施している	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害を理解しており、玄関等は施錠されておらず、誰でも自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけないことについてはご理解いただいている。話し合いの機会はない	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	常に居場所の確認をしている。外に出ようとしていたら、職員が付き添う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	本人やご家族から情報提供された病歴については把握できている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	気づいたことがあれば日々の記録に残し、必要に応じて医師に繋げるようにしている	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	往診医に相談したり、専門医を受診するようにしている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前の受療状況は把握できないこともある。ご家族の希望で入所前のかかりつけ医にご家族が同行されることもある	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	ご家族の協力により定期的な医療を受ける利用者もいる	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	定期的な通院となればご家族に協力をお願いしている。難しい場合は職員が対応している。受診の結果や経過などはご家族に連絡している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供書にてホームでの情報を提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院後も定期的に病院へ行ったりご家族から情報を得ている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	×	急変し入院することが多く、日頃からの関係づくりは行っていない	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気づきがあれば介護職から看護師へ相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	連絡を取れる体制にしている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者の変化を早期発見し、受診、治療に繋げるように努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	職員によって理解度が異なる	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬の管理から服用に至るまでに複数の職員で確認することにより誤薬を防ぐように努めている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の様子を確認し、必要に応じて医師に薬の調整について相談している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方薬が変更になった場合は特に経過観察に努め看護師や医師に報告している	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	利用者の状態に変化があればご家族に報告している	/	/	/	重度化や終末期のあり方について、利用者や家族、職員、医師等関係者を交え話し合い方針を共有するようにしている。利用者が最期まで事業所で暮らせるよう、看取り指針を作成し職員全員で共有し看取りに備えている。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	看取りの指針を作成し職員にも共有している。	◎	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	利用者の変化に応じて職員と話し合い、不安なく看取りに取り組めるのかを検討している	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	ご家族への説明や希望は聞いているが、ご家族の希望とホームでの受け入れ態勢が異なる場合もある	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	重度化した利用者も受け入れていたが、実際に看取りには至らず。利用者の変化に応じて職員間、往診医と相談しながら行っている	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	×	実際に看取りはないので心理的支援には至らず。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	職場内研修や外部研修にて学ぶ機会を作っている	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	資料による研修が多くシミュレーションはできていない。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政からの連絡があれば職員に回覧し周知している	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	情報収集はできていないが常に予防に努めている	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員や利用者には徹底している。来訪者には玄関で対応したときに口頭で消毒をお願いしている	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	一部の家族に限られるが関係作りができています				運営推進会議や事業所の行事案内を送付して、家族に参加してもらっており、毎年恒例の餅つき大会には多くの家族が訪れている。毎月写真入りで利用者の日々の暮らしを書いた手紙を作成し、看護師や介護支援専門員がコメントを追記して家族に送っている。事業所の運営面のことや、職員の異動等については報告しているが、一部の職員異動に限られていたり、把握できていない家族もいる現状であるため、十分な理解が得られるよう、さらなる工夫に期待したい。家族来訪時には必ず声をかけ、話しやすいよう配慮して利用者の日頃の様子について話したり、要望を聞くように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族の希望を優先して面会できるようにしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	運営推進会議やホームの行事には案内して機会を作っている	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月ホームでの様子を写真入りでおたよりしている。遠方に住んでいたり、高齢のご家族には電話で連絡して様子を伝えている	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	毎月のお便りを楽しみにしていると言っている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族には言えない本人の思いなどを間に入って伝えることもある				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	利用者に影響のある改修工事などについてはお知らせしている。職員の異動や退職については介護支援専門員などのかざられた職種についてはお知らせしている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会は行ってないし、希望も上がっていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ホーム外への脱離や転倒などは、利用者にとりうるリスクとしてご家族には説明し理解を得ている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時には職員の方から利用者の様子についてお話するようにしてご家族が話しやすいように努めている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所前に説明を行い理解を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	こちらで退居先を提供することはなかったが、ご家族の希望で退居される際もスムーズに移れるように情報提供を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時にはご家族に文書で示し、同意を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	施設長の地元なので設立段階から地域の方には説明している	/	◎	/	町内会に入会し、地区の行事に積極的に参加したり、散歩時や事業所に隣接する畑を耕している住民と日常的に挨拶を交わすなど、地域との交流に努めている。西日本豪雨災害で小学校に避難した際は、地域住民と共に炊き出しの提供を受けるなど、一緒に一夜を過ごすことで地域住民とのつながりが深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩や地域の行事に参加した際にはあいさつしている。災害避難した際には一緒に過ごし、炊き出しなどのご好意をうけた	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域の利用者が入所したことで見守っていただいていると感じる	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	気軽にとまではいかないが地域の友人が面会に来られることもある	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホーム横の畑作業に来ている地域の方とテラス越しにお話しされたりしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	ホームの行事には町内のボランティア団体が協力して下さる	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	訪問散髪サービスを利用するようになり利用者も喜ばれている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	地域の消防訓練などに参加している。災害による避難の際には区長さんや消防団の方にお世話になりホームについても知っていただく機会となった	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族の参加は少ないが地域の方は参加して下さっている	◎	/	△	運営推進会議には地域住民や介護相談員、町会議員・町職員が参加しているが、家族の参加が少ないので、日程調整などの工夫に努めて欲しい。会議では外部評価の結果や取り組み状況について報告している。会議で出された意見や提案を集約し、事業所の運営に活かせるよう話し合っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	評価後に報告し意見をいただくようにしている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案があれば取り入れるようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	平日だけでなく、土日に外出行事と併せて実施することもある	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ホーム玄関にて閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	常に理念を意識して支援に努めるようにしている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ご家族には入所契約時に説明している。地域の方には機会があれば分かりやすい言葉で伝えている	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修を受けるよう周知している	/	/	/	事業所は山間部に立地しているため、通勤等の課題があり職員の確保が困難な状況で、人員不足により休日があり取れていない。職員には負担となっている現状なので、代表者は人員を確保し働きやすい職場環境づくりに努めるなど、職員のストレス軽減につなげて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	△	必要と思われる研修材料があれば担当者に伝え職場内研修として取り入れるようにしている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格取得や経験年数による職位手当を取り入れ、職員にも周知している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県GH協会の理事をしており勉強会などに参加の機会もついている。地域包括支援センター主催の介護支援専門員研修会にも参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	職員数に余裕がなく休みが取りにくい状況になっている	◎	○	×	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	マニュアルや研修により理解している	/	/	/	職員は虐待防止について学ぶ機会を持ち、対応方法や手順等を理解し共有している。不適切なケアに気づいた時は、職員で対応策を話し合うなど防止に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	業務中に、その日出動している職員と話し合いや相談を行っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	利用者の観察は日々行っており気づいたことは連絡するような体制にしている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員が一人でストレスを抱え込まないようにケアの方法を変更することで改善されないか等、話し合う機会を設けている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	マニュアルや研修により理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	必要に応じて行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望はない。	/	/	/	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	外部の研修により学ぶ機会はあるが周知できていない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要に応じて個別に対応するようにしている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	家族から相談があれば必要に応じて相談している				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	周知しているが職員によって理解度が異なる				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	機器の使い方などを定期的に確認するように周知している				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	気づきがあれば記録に残し対応策などを話し合うようにしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態変化に伴い出てくるリスクについて対応方法を相談し実践している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	必要に応じて検討するようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	これまでに苦情がないので対応はしていない				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	これまでに苦情がないので対応はしていない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別に要望などは聞くように心がけている。毎月1回、介護相談員が訪問されるので苦情があれば伝える機会となる			○	利用者一人ひとりの要望などは日頃の生活の中で個別に聞き取っている。毎月1回介護相談員が来所し、職員には言えない意見や要望を聞く機会になっている。家族には運営推進会議や面会時に要望を聞くほか、介護計画更新時に意向等を記載してもらっている。管理者と職員は日頃から何でも言い合える関係が築けており、常に利用者のためにできることは何かという視点で話し合い、利用者本位のケアに活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	事業所の苦情窓口は伝えている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に伝えているので、その後は伝えることができていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	可能な限りホームに立ち寄り職員に話しかけるようにしている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	利用者の為にできる事を職員と話し合うようにしている			○	

愛媛県グループホームぽかぽか

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	日々の支援を見つめなおす為にも全員で行うようにしている	/	/	/	評価結果等については、運営推進会議で報告しているが、参加者に取り組みのモニターをしてもらうまでには至っていないので、今後の取り組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価をすることで個々の意識の違いも発見される。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	無理な目標を立てず、一つずつ達成できるように取り組んでいる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議の場で報告している	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	成果の確認まではあまり実施できていない	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	整備し職員に周知している	/	/	/	地域住民とは西日本豪雨災害時に築けた関係があり、地域との合同訓練にも参加するなど協力関係が構築されており、緊急災害時の支援体制は整っている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間帯や災害など想定し、消防の協力を得て行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的にチェックし補充している	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域との合同訓練は町の訓練の機会を利用して参加している	△	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	消防署が実施する災害研修に参加している	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	地域に向けての発信はできていない。今後何かお手伝い出来れば良いと思っている	/	/	/	相談対応の体制は整っているが、山間部であるなど地理的な事情もあり、相談ニーズの集約ができていないので、事業所のPRを積極的に行うなど、相談件数を増やす取組みが望まれる。地域の健康教室に利用者が招待され地域とのつながりがあるなど、事業所は地域の一員として認識されており、福祉の拠点となっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があればいつでも対応するようにしている	/	○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所の開放はしていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学生の職場研修事業に参加したが、今年実現されなかった	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地区ごとで行われる健康教室へ出身利用者が招待されている	/	/	○	